

2010年1月21日(木)

コペンハーゲン会議(COP15/COPMOP5)報告会 森林の取り扱いのこれからは？

国際環境NGO FoE Japan

江原 誠

COP15までに森林分野は主に何を目標に議論されて来たか

- ① 次期枠組みの先進国のLULUCF※の吸収量・排出量を算定するルール決定
- ② 次期枠組みに途上国のREDD-plusを緩和対策として用いることの決定
- ③ 途上国のREDD-plusの実施方法の大枠ルールの決定

※LULUCF: Land Use, Land Use Change and Forestry

①実際にどうだったか

●LULUCFの議論の結果と主な論点

– 森林経営活動の算定

- 算定ルール(グロス-ネット、ネット-ネット、参照レベル)
- 義務化

– 森林定義の改善(NGOの視点から)

②③実際にどうだったか

● 議論が進んだ点

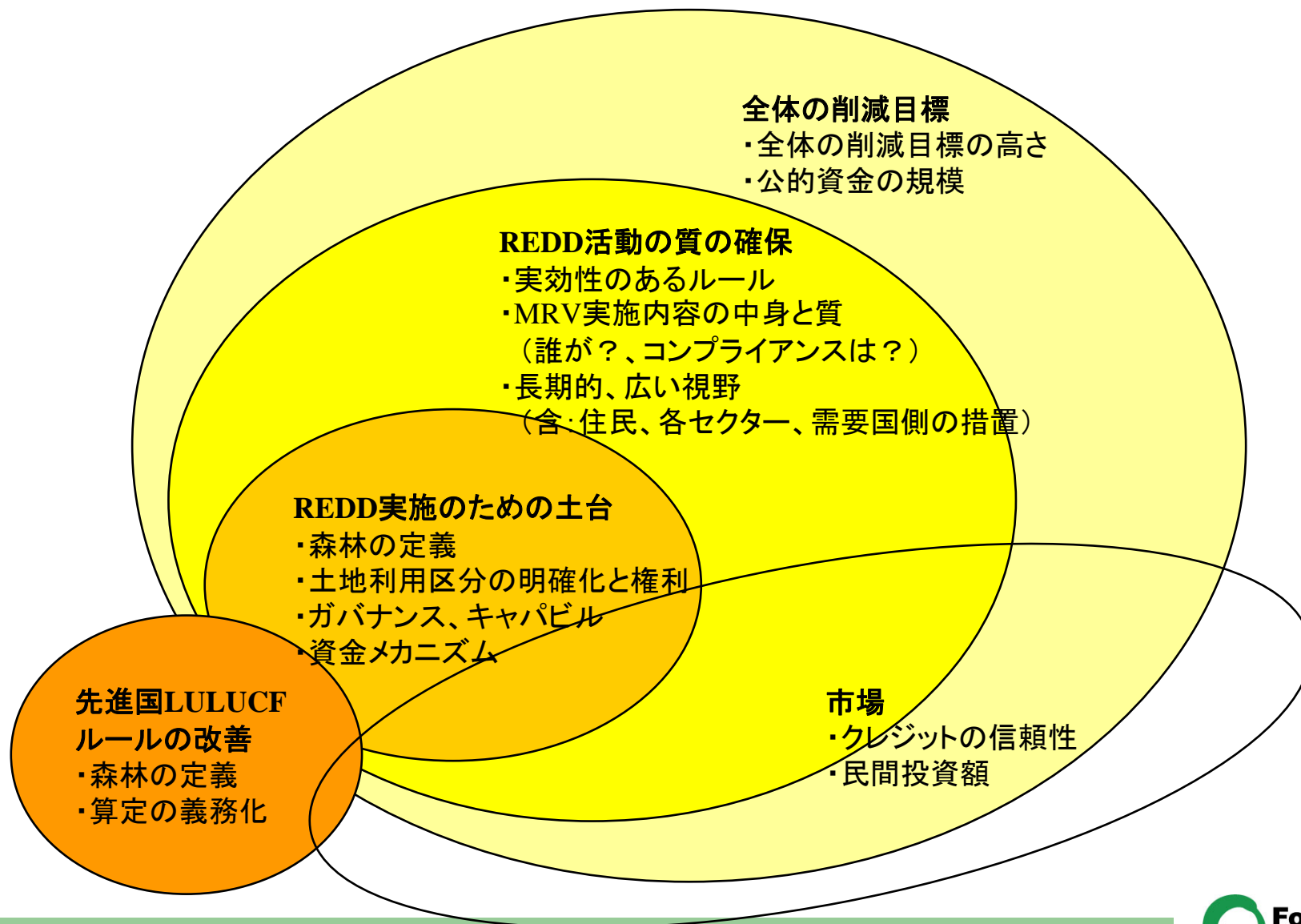
- REDD-plus※の活動枠等の整理
- 「天然林転換に用いない」、「土地利用権」、「森林ガバナンス」、「ジェンダー問題の考慮」、など

● 残った主な論点

- REDDの目標
- セーフガード
- NAMA
- 行動及び資金のMRVなど細かな運用ルール

※(a)森林減少からの排出の削減、(b)森林劣化からの排出の削減、(c)森林炭素蓄積の保全
(d)森林の持続可能な管理、(e)森林炭素蓄積の強化

今後の気候変動対策における森林分野の課題や方向性

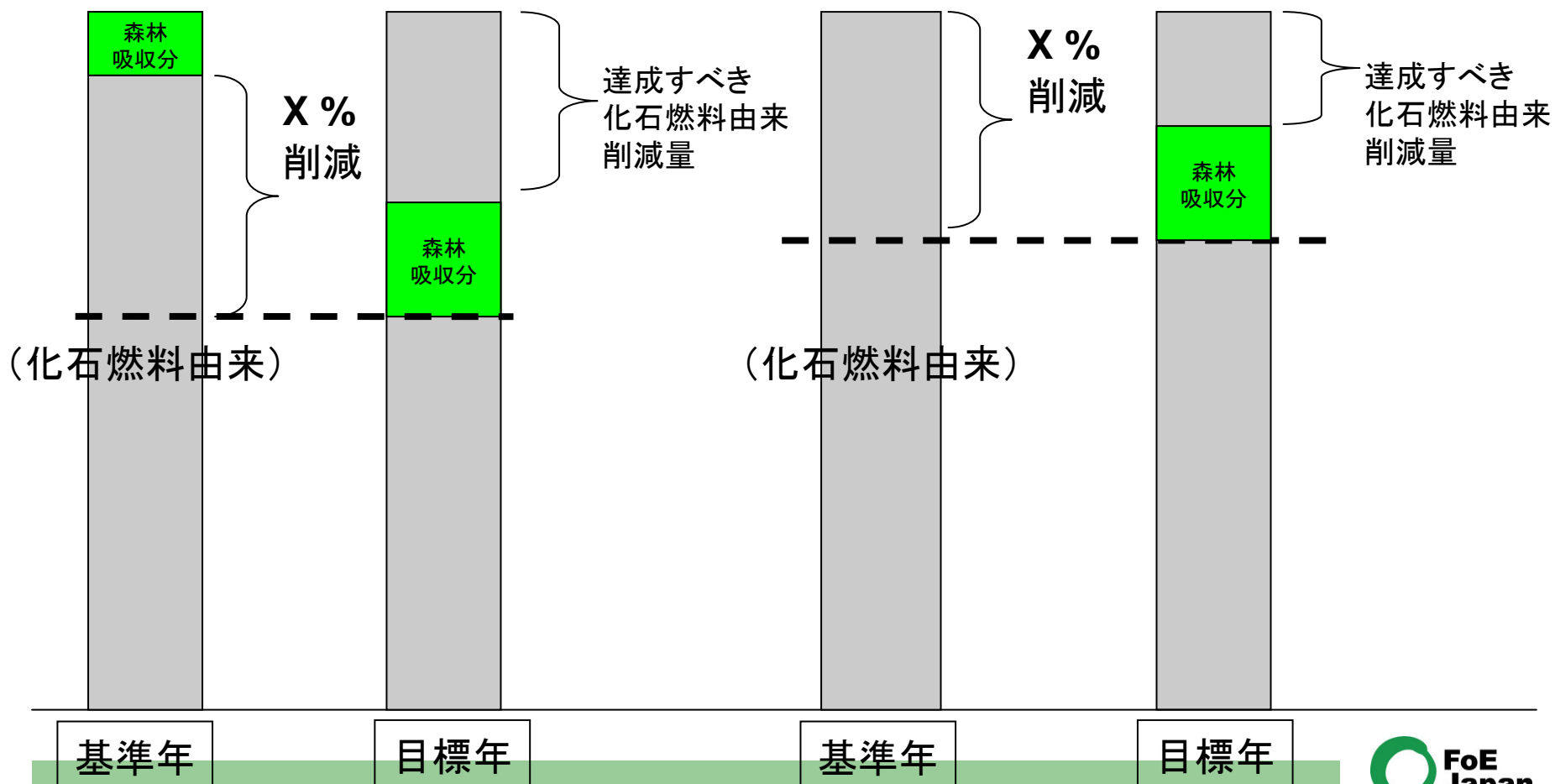


参考資料

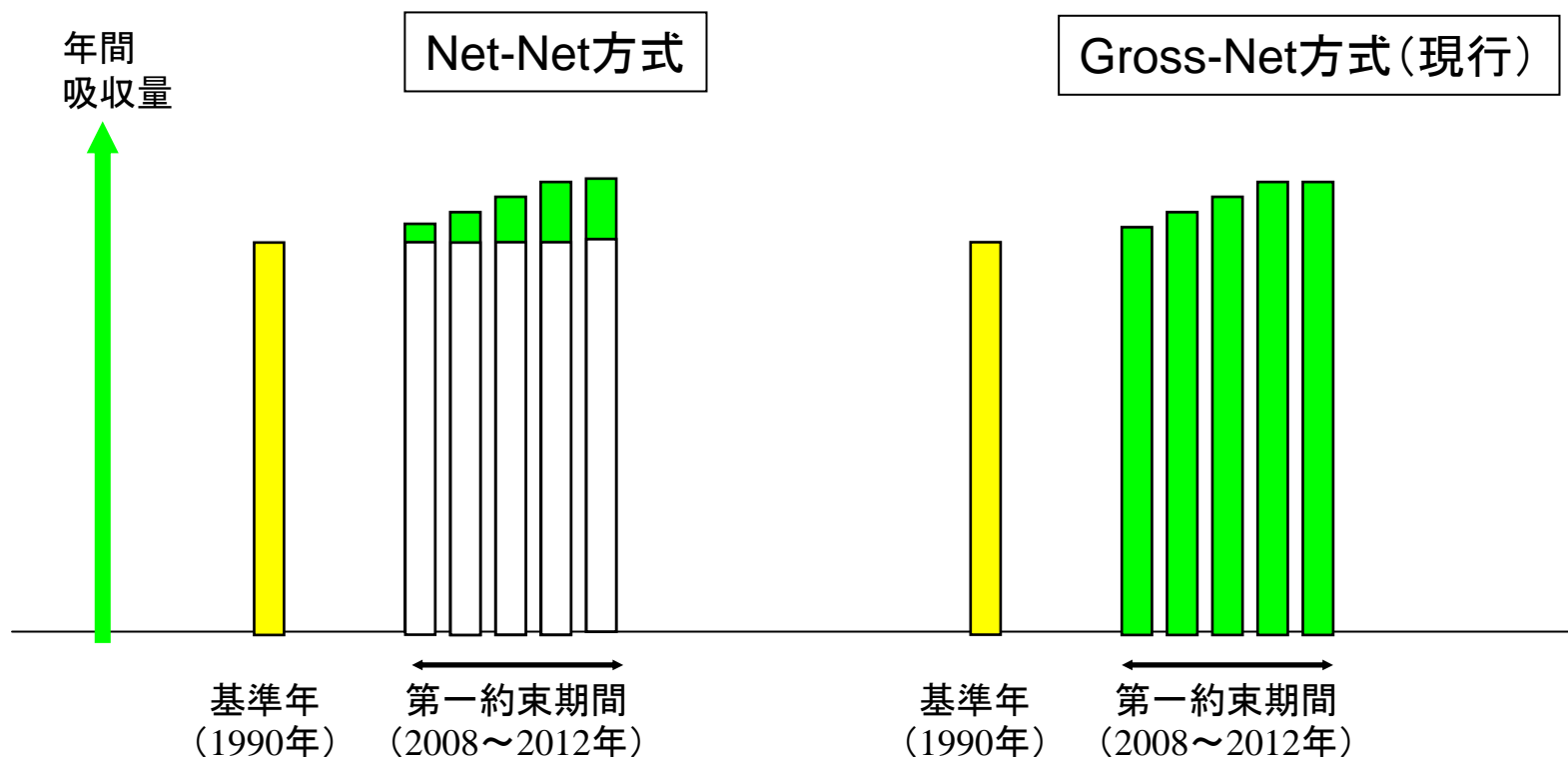
エネルギー起源の排出削減努力の低下

Net-Net方式

Gross-Net方式(現行)

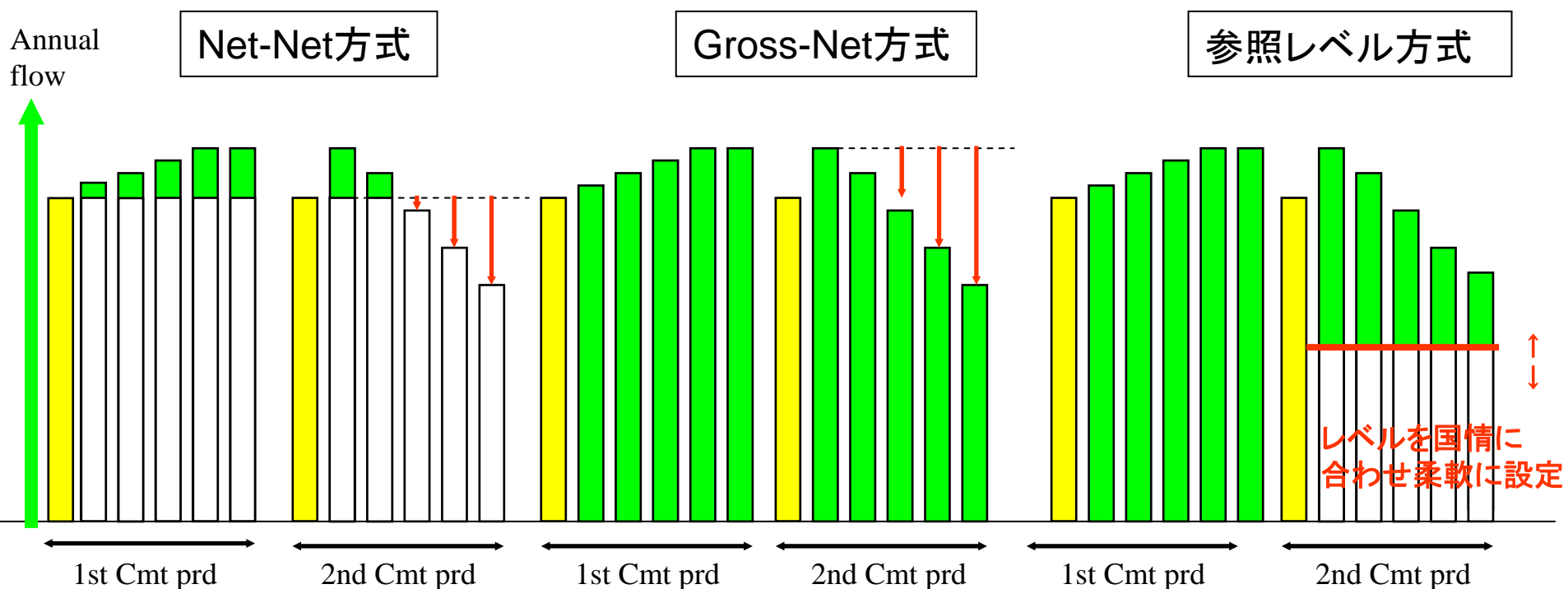


「人為的活動による削減分」のみの評価でない



2009年7月16日林野庁「森林分野における国際情勢説明会」配布資料を下に作成

今後の日本の森林吸収量低下と各計上方法の違い



2009年7月16日林野庁「森林分野における国際情勢説明会」配布資料を下に作成



ご清聴ありがとうございました